

明治四十五年

一月一日 七時一同起床、七時半雑煮の御馳走あって後、林、佐藤両君舎生を代表して宮部石沢二氏に年賀に行く。

一月二日 午後六時より舎長宮部博士に招待され、かるた、トランプ等のあそびに時の過ぐるを知らず、一時半帰舎す。

一月三日 昨夜のつかれにて朝寝坊多し。

夜、管君忍路より帰る。但し食事は明朝より。

一月六日 夜は有志の者森広様のかるた会に招待され舎内静かなり。

一月七日 昨夜より近来稀なる大吹雪なり。

夜、田口君忍路より帰る。食事は明朝より。

一月八日 管君、根本君昼食の客膳各一個つつ。

管君夕食客膳一個をとる。

夜、仮委員林君より田口君委員の引きつぎをなす。

一月十日 夜、維新堂より現金にて森林生活及び血烟を求む。

一月十一日 午後、工藤君、小瀬君帰舎す。食事は明朝より。

先日の大吹雪にて汽車不通なりしが、漸く通じ、内地新聞三日分一時に来る。

一月十二日 夜、辻君帰舎す、但し食事は明朝より。

一月十四日 林君、昼食客膳一つ

夜、文芸部の雑記帖一冊求む。

一月十五日 本日より十号室炭を使用す。

夜、非常に騒し。

一月十六日 別に記すべき事なし

↓

一月十八日

一月十九日 今日迄我が寄宿舍に年賀状を贈られし芳名左の如し。

篠塚栄次君 荒川 一君 金子貞治君

曲尾寅雄君 内田黍郎君 三田村正孝君

大橋秀吉君 豊島憲二君 沼田秀雄君

羽生氏俊君 黄金井解三君 和田 丘君

辻 義一君 小松原謙平君 村上雄之助君

小熊一義君 朝倉金彦君 田口次郎君

長嶺はつ君、同秋子君 豊島憲二君（二枚目）

石川兼吉君 上野亮太君 鈴木力治君

柳川秀興君 瀬戸太一君 工藤吉之助君

上田啓太郎君 今 興太郎君 小野崎治三君

一月二十二日 朝食後委員会ある筈なりしも時間なきため夕食後となせり。

委員会にて二十七日（土曜日）月次会を開く事となせり。

一月二十三日 昨日、今田君朝食、管君昼食の客膳各一つ。

今日夕食客膳管君一つ。

備考（委員交替）

文芸委員田口君退舎に付以下暫らく小生引継ぎたり 丹治生

一月二十七日（土曜日） 午後六時半より月次会を開く、委員は左の四名の諸君なり。

今田君 石沢君

林君 矢田貝君

今夜の弁士ハ多くして大に振ってゐた。

守屋君（故郷談）

奥門君（人事を尽して天命を待つ）

佐藤君（日本青年の覚悟）

丹治君（朋友論）

管君（退舎の辞）

宮部舎長にハ他に二ツも会ありて御多忙中にも拘らずご出席をされて内務次官床次竹次郎氏を中心として時事問■となり居る宗教と〔教〕育論ニ関して青年にハ宗教の必要な事を述べられた。

余興ニハ色々錢廻はしなどして十二時近くに散会した。

一月二十八日 管真三君本日夜退舎された。

同君は、四年の間在舎せられて色々舎の為め尽力せられ、殊に運動委員、賄委員として、又紀念祭の余興まで大ニ君ニ負ふ所ありしも、今や論文多忙につき止むなく退舎さるゝ事となりしは残念である。

田口君退舎さる、之又、大ニ惜しき至りである。幸ニ諸兄の健全にして御勉強あらん事を祈るのである。

客膳夕食辻君一つ。

一月二十九日 小瀬伊俊君都合により本日夕食後退舎されたり。

本年の冬ハ比較的暖かなりしが、流石は時節で近頃ハ大ニ寒くなった。雪ハ例年より多い、雪ハ豊年の徴と云ふから慶すべき事だ。

石沢君と北村君とハ予科の定山溪旅行に加はり、昨朝出発せられて北村君のみ本日夜刻に帰られた。

一月二十八日（日）本日は本道のみならず世界に有名なる札中の雪戦会が開かれた。

雪戦、擬馬競争、城陥し、何れも勇壯で痛快だった。吾舎よりも柄多、戸野の両勇士出征せられ大ニ奮闘して凱旋せられた。

一月三十日 石沢君午後帰舎せらる。

ピンポン大会

午後一時より開かれた。久しく錬りに錬りたる劍のさへは目ざましくも輝き閃いた。両軍よく奮闘努力したが、最後の決戦、大将の交戦ハ遂ニ上杉將軍の勝となり、紅軍の豪勇、管大将ハ見事討死したので白軍の勝となり、次の如き結果となった。

優待三名（佐藤、丹治、安井）、一等二名（上杉、戸野）、三等三名（柄多、矢田貝）

紅軍	◎白軍
管	○上杉
工藤	◎佐藤
根本	坪坂（以上三役）
◎戸野	高橋
◎丹治	辻
○柄多	奥間
今田	○守谷
中川	石沢
○矢田貝	◎安井
	林

丹治 ◎上杉

一時間の戦雲収まりて二時頃より敵味方打ち交ちり相談笑して茶菓の餐に列した。

当日、管大将の遠く出征せられ且つ、運動部に金子若干を御寄附被下しは感謝する次第である。

本日、文芸委員の補欠選挙の結果ハ如左、

当選 今田君 六票

次点 北村君 四票

二月二日 本日、丹治君より文芸部委員事務を引次ぐ。

二月三日 天気晴朗にして街路の雪解け初めて言はゞ小春日和？

夕食後、新聞雑誌を競売す。其の結果左の如し。

一、太陽（一月分） 金拾貳錢 矢田貝君○

一、実業之日本（新年号）拾壹錢 柄田君

全（十五日） 四錢 北村君

一、朝日新聞（二月分）拾七錢五厘工藤君○

一、万朝（同） 拾六錢 戸野君

一、北海タイムス（同）拾五錢五厘守屋君

事項左之如し。

（一）、第二月分月次会委員選定、例之如し。

（二）、八〔矢〕田貝君の野羊を養いたしとの申出にて、もと宿舎として鶏を養いし小屋

を使用さすか否かの協定なりき、之れは使用さす方に決定の様子。何れ頃に定まるならむ。

二月二十二日 近頃新しき雨降りて積雪も一尺位消へし様に思はる。冬籠の日数も少なくなりしかと思ふと雪に四方を閉されとも春の来し心地して舎生一同心浮き立ちし様におぼゆ、近来稀れの天候。

二月二十四日 雪は四面を囲めど、我が宿舎の内は梅花の咲き匂ふえれよりも尚楽しき団欒を見る。今日は土曜にて夢の間に立ち去らんとする式月を送らんとして月次会を開会す、其の委員、左の如し。

柄田君、北村君、工藤君、守谷君 以上の四名

先ず午後五時となるや一同食事すべく食堂に参集するや三品の馳走を味ふ。即、(一) サシミ、(二) 豆ヲ煮テアンノ様ニセシモノ一皿、(三) カブニ牛肉一皿にて、其の味一同に満足をあたへし様に顔でよまれた！

午後六時近くなるや、一同食堂に集合し、各々席をとるや、北村君の開会の辞あり。

第二、根本君の山林と国家に就出演、

第三、八〔矢〕田貝君の台湾生蛮の話し、

第三、丹治君の奮闘

右終りて閉会とす、されど何となく心に物足らぬ様に只一つ思はれたのは、常に御出席被下宮部舎長の欠席なりき、されど然し、如何にとも成す事不能、是れより余興に及ぶ。

第一、茶菓子各一袋宛配与せられ、其の中に五分間演説の題目入りてありき、之れにて一同皆交互出でゝ出演す、実に面白かりき。之れを拍手喝采の中に終り、菓子と共に渡されし **Wy** [Why] ト **becous** [because] ノ二枚の紙に各、問と答を書きたりし、之れが其の意不思議にもよく通じ実に面白く報復絶倒せざるを得ない様なものありき、之れを終り、第二に一枚の紙渡さる、之れは、次の様な人を舎生中より選抜す。

一、夫婦喧嘩をする様な人。

二、賄賂を取る様な人。

三、芸者を買ふ様な人。

四、物を買ふ時値ざる様な人

五、女にふられそふな人。

以上の五人を舎生中より当〔投〕票する事、而して当選の人は之が感想を話す事なりき、其の当選者

(一) 上杉、(二) 中川、(三) 工藤、(四) 林、(五) 辻、以上の諸君でありき、其の各の話し及弁解は実に面白く、中には笑ふて腹をいたくした者もありし様なりき。

時に午後九時、是れにて閉会となり、各室に帰る。どんよりとした雪雲の中に枯れやつれしエルムの木の隙間より朧月の半影が淋しく照りて居れど、之が反って愉快の為め詩的に見へぬ。

此度の月次会は近来にない面白く進行せし様に思はれたり、然して時間も小時刻にて!!!

二月二十九日 此の日委員会合し、月末決算をなす、其の結果本月分会費八円廿四銭。炭代を加へて九円八十四銭になりき、総体此の月は賄善かりしかば割合に廉価なりき、何時の月よりは、弁当持参者多かりし様にて計算此の方に多くは入りし様に見受らる、午後八時半より同十一時決算終る。

三月一日 決算報告図書室に発表す。

三月三日 本日、新聞、雑誌競売の結果左之如し。

- | | | |
|-------------|-----|------|
| 一、北海タイムス | 十一銭 | 戸野君 |
| 一、朝日新聞 | 十七銭 | 工藤君○ |
| 一、萬朝報 | 十四銭 | 今田君○ |
| 一、太陽（二月分） | 十三銭 | 坪坂君 |
| 一、実業之日本（二冊） | 六銭 | 奥間君○ |

本日文芸部委員図書室の書籍は一人一冊ニ限り持参を許し、一冊以上は、之れを許さざる事と決定す。

三月十三日 戸辺君今日朝食後外泊なす、同時に炭も午前限り

午後雪花散乱す、以て寒し。

三月十五日 午後小雪降る、午後二時、札幌中学卒業生柄田君近々の中に当舎を去るにつき送別をなすべく掲示ありたり、即、明日午後零時四十分開会するとせり。

今日農科大学は授業（第二学期）最終の日にて、明日は休業、十八日より学期試験にて一同大勉強なり。

三月十六日 今日午後零時半、柄田君の送別会を開催す、先ず文芸委員テーブル四台（図書室ヲモ用フ）を担て会場を作るや、一同参集して、丹治副舎長の送別の辞終り、他一名の送別の辞ありて柄田君の答辞あり、終りて茶菓の饗応ありたり、其の費用一円五十銭之れは文芸部委員丹治君より受取る。午後一時二十分散会す。

三月十八日 本日より農科大学予科及各実科の学期試験始まり、各々磨き得た大刀を下すべく勢よかりき、朝食を終りて登校の時風少し出て空の色宜からざりしも午後三時迄は平静に過し、是れより北風に雪を交へ北海道産の大吹雪は始まりぬ、かくして風は強くなりて、人家戸を閉し、エルムの木末のきしる音ハ物凄く、午後十二時頃も止まざるのみか増す様なりき。

三月十九日 昨夜より風吹き是れに雪を交へ尚止む事なく、登校の際は皆大困難を極めしが始〔如〕く、雪山右に現はしと思へば急に消へ、左に現はる、然れども我が寄宿の健児は一人の欠席者もなく、勇氣凛々として風に向ひて行く、エルムの木枝、秋の紅葉の之れよりも繁く黒点を止めしは、言はずして風の荒を忍ばしむ、此の日も風止まず。

三月二十日 午前零時半地震起りたりしが短時間にして我が宿舎には何の損害もなし。

今日は曇り勝ちなれども雪降らぬと思ひしが午後二時ごろより又々雪降る、風なし、中学生二名を除く外は農科大学にして皆学期試験の半分済みて明日は休みなれば夕方散歩するもの多し。今日は一体水曜日にして湯が有りて入浴出来る日なれども昨夜の風の為

めか煙筒のつまりしかばなかりき。

午後五時来ル廿六日月次会を開会すべく掲示ありたり、其の委員左之如し。

根本君 中川君

奥間君 佐藤君 以上四名

三月二十二日 午後九時半一年間在舎せし柄田吾一君愈中学を卒へて京都方面へ受験の為め出発す、よりにて舎生中有志者駆迄で見送りしが発車時刻遅延せしかば、試験中なれば、大方のものは皆乗車を見ずして帰りしは残〔名残〕をし。

先日の吹雪にて天気面白からず、雪散乱す。

三月二十五日 本日、農科大学の学期試験終了す。皆人は重荷を下したかの如く散歩するもあり、床に伏するもあり、歌を声高く唱ふもありき。

午後五時、予科弍年工藤君帰郷、及石沢君帰家せらる、食事何れも本日限り。

三月二十六日 午後七時月次会を開催す、今日の夕食には寿司に御汁一碗及口及他の銘食物一皿にて中々料理出来よかりき。

予定の時刻となるや、宮部舎長及以前在舎ありし小松原謙平君土木工学科卒業生の御来光より何となく会も賑はしく見へぬ。開会の辞終るや奥間君故郷琉球の話しありし後丹治君の趣味に就ての話し、終りて来賓小松原君の築港の話しあり、終りて宮部舎長之人ノ長所ヲ見テ交レバ大人物トナル。事につきて訓話ありし時は舎生一同皆今日始めて聞き事にあらざれど静かに満場冷水をあびせしが如かりき、午後九時閉会となり以後は別に新しき遊戯とてもなく、一同円形となり炭火を囲みて互に打解、試験はなし、気楽に、楽しく色々の世間話しにて午後十一時過ぎ頃迄で一夜を面白く送りぬ、以て舎生の意気投合せし一班を知るに足らんか。

三月二十七日

本日戸島君朝日川方面へ旅行す、食事は今日限り（この項、線引きで削除）、運動部主宰にて琴似之角にて雪滑りを催し賛成者を募集す。舎費拾銭。

三月二十九日 降雪の為めか、昨日も本日も見合せ。

三月三十日 雪滑賛成者本日午前五時出発、其人名左之如し、林君、佐藤君、北村君、根本君、丹治君の五名なりしが、予定の行動を取りて午前八時帰宿せらる。実に其勇気称賛すべし、恨むらくは賛成者の少かりし事なれど色々の用事及病気等にて止むなきぞ致し方なけれ。

三月三十一日 天候昨日の様にあらざるも吹く風一段と暖くなり行くぞ、流石は春なれ、井の水桶の落ちし為めか人夫二名来りて修繕し居る。かれは冷げなり。

午後六時委員集りて月末決算をなす。米の消費多く、略先月よりも一俵（四斗俵）不足の為め、一同不審の眉を集む、然し色々の事情より解決せらる。本月は炭消費者にて一人分九円八十五銭、是れも前月よりも米の多かりし為め如之なりし、同十一時終了す。戸野博君退舎を決定す、氏は中学（札幌）を去り、東京の中学に転校の由。

目下在舎生左之如し。

林、北村、安井、上杉、工藤、佐藤、今田、奥間、辻、高橋、守谷、豊島、中川、根本、石沢、坪坂、八〔矢〕田貝、以上十七名他副舎長丹治君の十八名なり、豊島君朝日川へ旅行。

四月一日 新聞にて都の空は花とかまびすけれど、此の札幌之地は未だ余寒去らず降雪を見る。

四月三日 本日は佐藤学長之就職廿五年記念日なれば午前十時登校す。式終りて午後零時半より予科主催の角力ありし、雪は午後一時頃より降り出して午後六時頃となるも尚不止、為に今夜の灯提行列は不首尾と思ひしも意外の盛況を呈して一同満足の様なりき。各一包の餅を賜りて同十時帰宅しぬ、思へば鳳平館〔豊平館〕に学長及同夫人の吾等健児之祝意を真に謝せられ、曰く「諸君ノ行為ヲ厚ク感謝シ諸君ノ活気ヲ悦ブ、此ノ決氣以テ益々活躍セラレンコトヲ乞フ」ト、喜悅満面に溢るゝを見て楽しと感ぜり。

四月四日 夕食後新聞雑誌競売す、其結果左之如し。

萬朝報（四月分）	拾五錢五厘	辻 君
朝日新聞	拾六錢	守屋君○
タイムス	拾六錢	八田貝君○
実日本一日発行	五錢	守屋君○
十五日	四錢五厘	辻 君○
太陽増刊（二月）	拾錢	林 君

〔右の一行、線引きで削除、欄外に「競売後行衛不明ニ付徴收中止」とある〕

同（三月分） 拾錢五厘 八田貝君○

右之通り成績にて終りを告げ、午後六時半会場ノ於北海道教育会場開催せらる佐藤博士就職二十五年記念通俗講演会に行きし者多し、出演者三宅農学士ノ白米ト糟〔糠〕、小出林学博士ノ新日本ハ是レ深林国ト云フコトヲ通俗的ニ話サレタリ。

四月五日 前夜と同しく講話会ありたり、出演者有島農学士ノ今ノ芸術ノ為メニ、橋本博士ノ文明国ノ家畜ハ幸福ナリヤト云フ題、何レモ面白ク、且ツ有益ナルコト多カリキ、殊ニ佐藤学長以下諸先生ノ来聴多カリキ、終リニ学長ノ懐古談アリキ、東京之内田黍郎より武談世界送呈アリキ。

四月六日 昨日来之晴天にて停車場通りの雪は皆消へ、砂煙の出る処さへありて人々皆陽気に見ゆ、されど大通りには未だ残雪消へやらず散策を試むるもいと多し。

四月八日 園芸委員安井君、花園を造らんとて門の側の二坪の地を耕さる、来るべき花満〔開〕時代を想像して人々笑むる、いとおかし。土木工学科豊島君帰舎せらる、食事は明日より。

四月九日 本日より石沢、豊島両君の多くなり、食堂大分賑しくなりぬ、午後四時頃、先日つくりし園に、安井君、丹治君、林君等の花の種子を蒔くを見る、天候曇り勝ちにて一、二滴の雨降る、あゝ今が春雨の出初式か!!

夕食後参学期の室替の抽籤をなす、其の結果左之如し。

第一号室北村、工藤 第二号室辻
第三号 豊島、中川 第四号 林、安井
第五号 坪坂 第六号 上杉
第七号 高橋 第八号 佐藤、今田
第九号 根本 第十号 奥間
第十一号守谷、石沢 第十二号八田貝

今学期委員左ノ如シ

守屋君 炊事委員 運動部委員矢田貝君
北村君 会計委員 園芸委員 安井君
衛生委員 中川君
文芸委員 石沢君

四月十一日 今田前文芸委員より事務引つきをなす。

四月十二日 本日は、曇替をなす事になり早朝より働き人來り大半仕上げ、明日昼迄には修繕を終ふる筈なり。

工藤吉之助君帰舎、食事明日より。

四月十三日 本日は好晴天にて加ふるに風なく実に近来になき好日朝なりき、為に杖を曳きしもの甚しかりき、舎は予定の如く室換をなす。

夕六時より委員会を副舎長室に開く、此度の六委員はすべて新参もの故其れ其れの分担の範囲、執行上の注意あり、七時半、特別の問題もなく終りぬ。唯、今日まで一週二回のふろを毎週三回づつ行ふに決す。

消火器そなへつけの義〔議〕ありしも、舎費不足ゆえやむをえず中止、又毎月宮部先生より舎前の道路の電燈費用分担格〔額〕毎月一円を昨年の春より宮部先生の好意によりて支弁し來れるもあまりお気の毒ゆえ、其の前後策〔善後策〕を講じたるも良案なく、現在舎費不足の昨今、舎より支弁の方法も不能故、世話人に交渉して電燈代減額を請求するに決したり。

曇かへも予定の如く終へて各自室換掃除行き届き何となく心安く浸〔寝〕につきぬ、月次会ハ第四土曜日挙行に決す。

四月十四日 根本君早朝実習のため同□□□と約一週間の予定にて野幌ニ趣く。

雪も大部分数日前の暖気のため消えうせて学校は各科ともランニングのレースの練習に余念なし、今朝、室換せしたため又〔以上七時線引きで削除〕下駄箱入換を行ひ整理す。

四月十五日 在京の内田兄より近信を報じて舎生諸君一同に來る。現今、東京大学病院之□内科入院療養中との事、願は全癒のさち君が上に一日も早くあらん事を祈る。

夕方テニスコートの雪全く消えて心地よければ、近所の子供と共に舎友四、五も共にボ

ールゴッコをなしあそび実に快愉なりき、明日頃よりはテニスの運動も行ふを得る事と思はれて一同、時の来るをまつもの多し。

四月十七日 本日内田君より新報知一部恵贈ありたり。

バリカン行進之不能トノ掲示ありたり（中川衛生委員より）

湯ハ本週より三回執行の旨、是亦掲示せらる。

四月十九日 月次会来ル廿七日開催する旨掲示し、委員高橋君、豊島君、坪坂君、辻君の四名に付託す。

四月廿日 テニスコート修繕のため舎生諸子の援助を乞へる運動部の掲示ありたり、晴天毎日打ちつゞき、実に春心地す、予科のランニングの練習、本日より植物園にて実行す、各科も亦大に賑ふ、柳川秀よ〔興〕雑誌、付せん□□□へ廻送す。

〔欄外に「実習のため出張サレシ根本君夜八時頃帰舎セラル」とある〕

四月廿一日 晴天、風なく実に小春日和にて人々は思ヒ※※外出、散歩に、足を曳くものが多し。

予定の如く本日ハテニスコートノ前後ノ竹垣新造のため午前ハ一号室より六号室迄出テ手伝イ、午後ハ西側七号室より十二号室に至る迄すべて出て予定の進捗を見、三時頃全く出来上ル。

植物園には各学科ランニングの援声の声高く実に愉快なる一日、然かも日曜日としてたのしみ暮しぬ、元舎生、昆与太郎〔今興太郎〕君、札幌病院ニ入院セラレ盲腸炎にて苦しまるゝ由、深厚ナル同情ヲ表す。

四月廿二日 坪坂君退舎（近々）セラルハニ付月次会委員辞退ニツキ后任者上杉君ト決定セルモ是又不己得用事在りし故安井君ニ託スル事トス。

四月廿四日 矢田寛君近日退舎、自炊生活ヲセラルハ筈。

文芸部ニテ障雲集（啄風著）を買求し、図書部ニ備ヘタリ。

四月廿六日 明日、矢田貝君退舎ニツキ予科生一同送別の宴を催く、丹治君本日より炭ヲ使用サル。

四月廿七日 矢田貝寛氏及坪坂氏退舎セラル、夜六時半ヨリ月次会ヲ会開ス、其ノ次第左ノ如し。

司会者 豊島君

一、坪坂氏の退舎の理由及在舎中ノ謝辞

一、高橋君の人生観……而シテ曰ク

人生ハ生シ為ニ生クルニ不在して、道のため生キルナリト主張して種々の方向より弁ゼラレタリ。

二、今田君□ 演説

三、来参与者石沢達夫氏、精身〔神〕ト肉体の調和の必要ヨリトキ、吾人ハ一方大に食ヒ而シテ **energy** ヲ蓄積し、而シテ是ヲムダニ **west**〔waste〕セヌ様注意セネバナラヌ事を述ベラル。

四、丹治君の坪坂、矢田貝両氏の在舎中の好意を謝され後、Gentleman ニツイテ述ベラレタリ、要スルニ人ハ常ニ Gentleman ラシクナケレバナラヌ事ヲ述ベラレ

五、閉会の辞

右ニテ会ヲ一時終リ、茶菓ノ饗応ヲウケ、大に愉〔快〕に時を過したりキ、中ニモ石沢達夫氏の岡田式静座法ニツキ論断ハ一同の注意を引キタリキ、此の舎生以外来会者ハ宮部博士舎長及石沢達夫氏の二名ナリキ。

全ク会ヲ閉ヂタル時ハ十一時半頃ナリキ。

四月廿九日 会計決算をなす（夜六時半ヨリ九時迄）

夕食后ニ新聞雑誌の競売ヲナス。

其ノ格価及買者氏名左ノ如し。

四月分

太陽	十一銭	石沢君
実業日本増刊	十六銭五厘	根本君○
実業日本	三銭	佐藤君
全	三銭五厘	佐藤君

五月分新聞

タイムス	十三銭	高橋君○
朝日	十四銭	工藤君○
万朝	十四銭五厘	今田君○

四月卅日 山梨県西山梨郡山城村

予科壹年生 篠原新英君

右今日入舎す、食事ハ明日ヨリ。

五月一日 今朝一時十分、養蚕講習所失火焼失す、一時大騒ぎ、舎生も近来の快事とて火事迄ランニングレーススルモノ多かりき、辻義一君夕方退舎サルル。

五月二日 北村君今朝岩見沢ニ旅行せらる。

石沢君今夜帰宅せらる。

五月三日 北村君今夕岩見沢より帰舎せらる、食事は今夕より。

五月四日 朝より大暴風雨為メに農科大学第三十回の運動会も延期せらる（南風）

五月五日 節句にて食事大臣はシルコの御馳走せり。

五月六日 農大運動会举行せらる、珍らしき好天氣の為め、待ちに待ちたる観覧者は非常に多く数年来の盛況なりき。

本年は名誉旗は北海道札幌師範校に帰し、優勝旗は大学予科の有となれり。

五月七日 本日は運動会の翌日につき各科とも慰労のため休業。

小松原君ニ雑誌附浅〔付箋〕回送す。

石沢君今夜帰舎す、食事ハ明日より。

五月八日 午後三時より丹治副舎長ご卒業ニ付多年舎のため尽されし労に報いん為、紀念

品を贈呈せん計画にて舎の古参舎生五名相会し熟議の結果凡そ十円位の贈物を為すに決し、其ノ一口の方法として丹治君副舎長当時在舎退舎されし諸君に檄をとばして寄附金を募集するに決め、差当り舎の諸君に向け勧誘を送れり。

此の度の委員を右〔以下欠〕

五月九日 円山の桜花昨今見頃にて小学校の遠足、会社の見物等、実に見物にして、足もひきもきらず来る日曜日頃は見頃ならん。

五月十一日 今日是一同にて春期衛生掃除を実行す。

午後一時半より農経済講堂ニテ帝大理科大学教授理学博士三好学氏の「天然記念物の保存ニツイテ」約一時間半の講演ありたり、要に、天然の動物、鉱物、地質、植物等漸く世の進歩と共に其の跡をたち種類の減少するは大に学界のため遺憾とする処なりとて、大に天然物保存の議を主張されたり。

五月十三日 無断他人の傘借用を禁ずる旨、丹治副舎長よりの告示ありたり。

南極探検隊長白瀬中尉日光丸ニテ長崎ニ帰港セリトイフ

五月十五日 本日は衆議員候補投票日なれば開票見物ならん、丹治君炭中止。

五月十六日 運動部委員矢田貝君退舎后其ノ人選ニ苦しみしが今朝根本弘之君就任の発表ありたり。

本日小野崎兄より丹治副舎長に此度大学御卒業遊ばされ、其ノ長の年月の間尽力されし労に報いん為曾而在舎生ニテ他地方にある人に勧誘して寄ふ金募集中の所、本日賛同せられ五十銭寄贈されたり。

本日衆議員開票の結果七百四十点浅羽靖前代議士当選す。次点者タイムス社長阿部■之八氏三百三十七票次点トナル。

五月十七日 今朝来ル廿五日月次会開催ニ付委員ハ

上杉君 今田君

林君 石沢君

ノ掲示ヲナス

小野崎君ニ昨日五十銭寄ふせられし礼状を差出す。

兼ねて文芸部より東京へ注文せし、英文日本号到着、意外の好評ヲえたり。

五月十八日 夕食后常務委員会ヲ副舎長ノ室ニテ開ク。主トシテ来ル廿五日月次会ノ送別会ヲ兼ネルニ際シニヶ年以上在舎せし人ニテ現今退舎サレタル人ノ送別ヲ如何ニスルカノ問題アリタリ、主トシテ招待行ふの可ナルニ決し、宮部舎長ニ相談するニ決ス、他ニ別ニナシ。

五月十九日 丹治副舎長ヨリ委員ニ対シテ昨日ノ役員会ノ相談会ノ返事アリタリ。曰ク曾テ二年間在舎生タリシ現退舎生ヲ招待シテ其ノ卒業ヲ祝スル事ハ差支ナキ事、副舎長後任者人選中ニ付現副舎長送別兼月次会ヲ一週間延バシ来ル六月一日、五六月ノ月次会ヲ兼ネ且送別及後任副舎長歓迎ヲナスヨシトノ事ヲ舎長ヨリ副舎長迄命命アリタリ。依テ延期スル事トシ、其ノ旨掲示ス。

五月廿日 丹治副舎長送別記念品贈呈寄附金募集趣意書本日大学各実科有志ニ提出ス。

五月廿一日 札幌高等女学創立滿十ヶ年祝賀会を挙ス。副舎長モ參觀セラレタリ、曰ク全国女学校成績品外国ヨリノ参考其他種々及、音楽会アリタリト言フ。

五月廿五日 本日一点ノ雲モナク暖気殊ニ甚シ、合衣ヲ用ヒ、夏帽子ヲ被ルモノ多シ。兼ネテ通り、本日午後二時ヨリ農大運動場ニテ小樽高商対農大ノ野球試合アリタリ。結果、農大二十高商〇ニテ農大ノ勝利ニ帰ス、北師亦本日運動会ヲ同校庭ニテナス。本日、内田君ヨリ来信アリタリ。

小松原篠塚両君ヨリ丹治副舎長慰勞記念品費用トシテ一円寄贈アリタリ。

五月廿六日 来月一日五六両月月次会ヲ兼ネ送迎月次会ヲ開催ニ月次会委員会ヲ本日一時ヨリ開會、此度ハ送迎月次会故通常ノ月次会ト趣キヲ異ニシ御馳走ヲナス事トシ、赤飯ニサシミ、クツトリ及ツケ物ヲ用ツウルニ決ス。当日撮影ヲナシ盛ニナスニ決ス。小松原君篠塚君ニ寄ふ金礼状差シ出ス。

五月廿七日 送迎写真ハ来ル廿九日ニナスニ決ス。徳田義信氏是度丹治副舎長〔の後任として〕就任ニ付来ル月次会ニ於テ歓迎会ヲ開クニ決ス。

宮部舎長ニ御案内申シ上且ツ其ノ節来ル月次会菓子ニ金二円五拾錢後寄ふ被下たり。常にかく万事に恵みをたれ舎生を思はるるを思へば感謝の外なし。

石津半治君、管真三君、坪坂太十郎君に月次会の際送別ヲナスニ付招待状ヲ發ス。

五月廿九日 今晚五月分舎費決算ヲ委員一同ニてなし九時迄要ス。

委員会アルベキ筈ノ所丹治副舎長の都合ニテナシニス。

五月卅日 本日丹治副舎長退舎準備トシテ荷物ヲ運搬セラレ明日愈々退舎セラルル筈、夜丹治君約六年間在舎セラレ后ノ三年間ハ副舎長トシテ舎ノ為メ尽カサレシ厚意ニ酬エン為メ記念品ハ置時計一個并ニ鯉六匹トス、鯉ハ舎ノ池ニ寄ふヲ乞フ事トス。

五月卅一日 后七時頃丹治君退舎、後任副舎長来舎セラルルニ付、委員及有志三名下宿ニ赴キ手伝ヒ、八時全ク荷物ヲ運了ス。

六月一日 五時食堂ハ開カル、副舎長ノ送迎ス、卒業祝ヲ兼ネタル故御馳走多ク其ノ献立ハ次ノ如シ

赤飯、白魚ニ鶏肉ノ吸物、ツクワ、ナツミカン、羊カンノ三ツニテクツトリヲ物〔盛〕リ、其トサシミヲ加ヘナカ※※ノ盛ナリキ

六時半舎長来舎ト同時ニ林君司會ノ元ニ開會ス、其ノ次第左ノ如シ

一、開會之辞 林 君

一、丹治君送別之辞 上杉君

一、徳田新舎長歓迎之辞 根本君

一、宮部舎長ノ送迎之辞

一、謝辞 坪坂君

一、同 石津君

一、記念品贈呈（丹治君ニ） 上杉君

一、丹治副舎長謝辞

一、徳田新副舎長ノ謝辞

一、閉会

六月三日 新聞雑誌ノ競賣ヲナス

タイムス	十二銭	守谷君
朝日	十五銭五厘	豊島君○
万朝	十三銭五厘	佐藤君
実業日(一)	二銭五厘	豊島君○
同(十五日)	二銭五厘	奥間君
太陽	十銭	林君

六月五日 副舎長送迎紀念撮影本日出来、分配ス、一枚廿四銭ナリキ。

六月八日 本日学年試験割時間表発表サル、舎生ハ試験準備トシテ勉強モソロ※※本調子ニナリ来レリ。

六月十三日 明夕ヨリ札幌神社祭礼アル筈ニテ市中ハ至ル処山車ノ飾装ニ忙シキ様ナリ。
今月初旬ヨリ計画ノ瓦斯布設事業及馬鉄経路モ大分歩ヲ進メ此ノ分ニテハ来月初旬ヨリ
開通ラシ

中島遊園地ニハ衛生博覧会ヲ開キ農大ヨリハ毒草ノ見本数十種陳列セシ由。

六月十五日 本日ハ前日来の暗雲及降雨モ一天ノ雲ナクスミ渡リ其レニ加フルニ札幌神社
ノ御祭リト来テ各学校ハ休業シテ参拝ニ赴クモノ多シ、人出又盛ナリ。

舎食事大臣ハ其ノ祝ニ大御馳走ヲナス。

其ノ献立ハ次ノ如シ。

サシミ、サケノ皿、スエモノ(エビ、フ)赤飯、クツトリ(カマボコ、夏ミカン、ヨ
ーカン)

実に山海ノ珍味ナリキ、為メニ食事中或ハ御祭リノ暫クアラン事ヲ期スルアリ、又札幌
神社ノ御威光ノ結果トカツグアリ、大ニ食堂賑フ。

発地君ヨリ来信アリ。

六月十七日 本日ヨリ各科学年試験開始サル。

六月十八日 水産科実科ハ本日ニテ試験終了ス。

六月十九日 太陽創立廿五年紀念号来ル。

六月廿二日 本日大学創立五週年祝賀会ヲ開ク(大学図書館ニテ)

同時ニ水産科モ同様五週年ナレハ祝賀の意を以て各教室開放シテ一般区民ノ自由観覽セ
シム。

夜委員会ヲ開ク。決議事項左ノ如シ

一、図書館ノ書籍ハ休暇中ト雖舎外持ち去ル事ヲ禁ズ。

一、廿六日ノ試験終了后舎生親睦会ヲ開ク事

一、会計ハ廿六日全部メ切ル事

一、舎生勧誘の手段トシテ舎の内様ヲ記セシ小雑誌ヲ舎生各五部位紹介の勞ヲトル事。

六月廿五日 土木工学及林学科学年試験終了。

六月廿六日 大学予科本日ニテ全部終了。

夜、舎生懇話会ヲ開ク、守屋君司会之元に徳田副舎長ノ■告及
休暇中門限十二時トス。

入舎生ノ勧誘手法トシテ舎誌ヲ舎生個人ヨリ分配スル様トの御話及休暇中ノ個人ノ注意
すべき事等につき御話しあり、后丹治君ノ御話、其ノ后茶菓牛乳ヲ食ヒノミ十一時半散
会ス。

本朝奥間君実習ニ空知郡ニ出張サルル。

六月廿七日 丹治前副舎長秋田県立農学校教諭ニ任ゼラレタリト揭示アリタリ。

六月廿八日 石津、工藤君出舎す、朝食あり。

六月廿九日 渡島 中川、守谷君出舎、朝食あり。

六月卅日 今田君出舎、食事あり。

七月八日 根本君出舎食事あり。

七月十三日 北村君出舎食事なし。

七月中 安井君昼一回客膳あり。

七月中 徳田君昼一回客膳あり。

七月中 佐藤君夕食一回客膳あり

七月一日 林君外泊食事あり。

七月十五日 安井君より文芸部委員を引続く、時に舎内は寂として徳田、佐藤、安井の諸
氏と余の四名なりき、午前は時々楽器を聞くの外更に人音もなく、気候は涼しく勉学の
好期なり、午後は実科の生徒毎日数名来り其れに実科の三浦先生水産の野島君等時々来
り佐藤君と余と之れに加わり、庭球は盛に行なはれたり、夕食安井君客膳。

七月十六日 安井君夕食客膳あり、一人。

七月十八日 毎日の寝坊博士なる余も本日は久しぶりに早起きをなし心持宜しき事甚だし、
時に一人の婦人裏口にあり、何の用事かと思ひば事は意外にして小学校の先生らしき者
にして九月よりオルガンの教授にてもするものらしく休暇中楽器の使用を願ひる者にし
て只九月迄にしてそれ迄楽器買求の資力なきとの話なりき、もし舎にてひく事出来ざれ
ば暫時休暇中損金を出して借りたき由申し出するに至りては滑稽至極の話なり。然し至
りて真面目らしき者にて年の頃二十三、四位の婦人なり、只九月の用意の為め是非実習
致さねばならぬ為めかゝる舎迄依頼に来る熱心の程は感心の至りにて余も当時竹の練習
に余念なき時なれば、余一人としては其熱心に感心して借すを許したかりしも一人にて
定むるを得ず、徳田さんも返事に困じしものの如く、宮部先生に許しを願ひ許されなば
宜しとのみ返事され婦人は帰宅せり。

七月二十日 今日、渡島君帰舎食事あり。

渡島昼夜二回客膳。

六月三十日 高橋君退舎、食事あり。

七月二十二日 渡島君外泊食事あり。

七月二十四日 篠原君本日帰舎、食事あり。

退舎日は七月一日なり、食事あり。

七月二十六日 安井、今田両昼食客膳。

七月二十七日 今田君夕食客膳

七月二十七日 夕外泊

七月三十日 我が聖上陛下後崩御遊ばさる。

我等只悲しみ堪えず、大行天皇陛下と謚名す。

此日又、我が皇太子殿下御踐祚遊ばさる、此日又年号を定めらる、称して大正と云ふ。

大正元年八月一日 安井君外泊、食事あり。

八月五日 安井君帰舎食事あり。

八月八日 篠原君夕食客膳。

八月九日 篠原、朝昼夕三回客膳あり。

八月十三日 安井君夕、客膳あり。

八月十三日 林君樺太旅行より帰舎、食事あり。

八月二十三日 北村君帰舎す、食事あり。

八月十五六日 夜安井君夕食客膳あり。

八月二十九日 徳田副舎長帰舎す、食事あり。

九月九日 下村君（水産二年）入舎す、食事あり。

午後十時中川君帰宅す、食事なし。

九月十四日 小熊君帰舎、食事あり。

九月〇日 種田君入舎す、食事あり。

九月十六日 多田君入舎、食事なし。

九月二十九日 外泊食事あり、今田君。

九月二十九日 此日午後六時半頃より月次会開かれ、北村、林君等の演説ありて後、徳田氏の訓示後、新入舎生の当時及び感想等ありて後委員改選ありて当選者左之如し。

文芸部 篠原君、会計部 林君、食事部 根本君、衛生部 工藤、運動部 北村君。

後、茶菓の饗応ありて新入生諸君の種々の芸ありて愉快なりし、只惜しむらくは、此日は、舎長腹痛の為め出席なきは遺憾なりし。

十月二日 本日より篠原君文芸部委員となられたり。

十月二日 過日の委員改選で当然落武者たる余輩が如何なる風の吹き廻しか此委員には当選した、而も文芸部委員なんて云ふとんだものに、是は全くの謂所御門違ひの品違ひものだが事茲に至ってハ已むを得ない、学校の落武者も顔を洗って兎に角今日松前委員より此名誉なる文芸部の事務を承継いだ次第だ。

今夕新聞雑誌の例の競売なり、滑稽至極の前委員の競売振りには一同腹の皮をよじった。

其結果は次の通り

北海タイムス (八) 九錢也足達君 (十日領收)
" (九) 七錢也北村君
" (十) 十五錢也園田君
東京朝日 (九) 八錢也多田君 (四日領收)
" (十) 十四錢也拙者 (七日領收)
萬朝報 (八) 六錢五厘也上杉君
" (十) 拾壹錢也北村君
実業日本 (七-八) 拾壹錢五厘也徳田副舎長
" (九) 拾四錢五厘也園田君
太陽 (七) 壹錢五厘也安井君
" 記年号 (皇室画報) 拾壹錢也奥村君 (同日スミ)
" (八) 五錢也徳田副舎長
" (九) 九錢五厘也豊嶋君 (四日領收)
" 増刊号 (九) 貳拾九錢也下村君 (三日相済ミ)
合計 壹円五十參錢五厘也

以上

十月三日 長く舎にあり炊事其他委員として舎の爲めに尽力されたる土木工科三年生守谷君今夕退舎せらる、舎生一同惜しむが処、移転先ハ北六条西八丁目吉原様方。

夕徳田副舎長と共に舎生一同に代り宮部先生の御病床を問ふ、日に御宜敷き由、尚先及奥様より一同によろしくとの御言葉あり。

十月四日 朝飯の拍子木がなりて間も無く、室換への掲示が出た。組合せは多分衛生委員のものした所だらう、室の決定は抽籤の結果だ。

第一号室 根本君
第貳号室 園田君及拙者
第参号室 今田君及奥村君
第四号室 林 君及種田君
第五号室 下村君及安藤君
第六号室 工藤君及安井君
第七号室 北村君及門野君
第八号室 上杉君
第九号室 豊嶋君
第十号室 奥間君及多田君
第十一号室 佐藤君及足達君
第十二号室 中川君

但し是は明日大掃除に先だちて実行されるのである。抽籤の結果は笑ふ人と黙る人と騒

ぐ人とが互に顔を見合せた、蓋し、佐藤君と足達君とは最も悲観された様だった。
宜なる哉十一号ではストーブが使へぬらしい。

十月五日 もう四五日前に知れてゐたが掲示は今朝出た。はつ兎狩の網は一昨日札中から十反程借りて来た。委員の話に依れば何でも五銭宛ださうだ、軽川までの汽車賃を半額補助するときけバ愈々運動部萬歳だ。

今日は是迄一同苦にしてみた大掃除をせねばならん。明日は楽しい兎狩りに行くんだから、朝飯が済むか済まぬでばた※※始めた勇士もあった。然し大概は放課後即ち午後やった。一時は仲々戦場でも行った様の騒ぎだった。一方では奮闘の真最中を得意然として手拭下けて風呂屋へ行く名誉の戦い者もあった。兎に角黄昏までにハ無事全部片付いた。

十月六日 星影尚しるき朝の五時数多のヴェッカーは一時に曉の静寂を破って、あちらこちらに響いた。舎生は飛び起きた。今日こそ兼ねて待ちたる兎狩当日である。各自四個の握飯を携へて雄々しくも立った。一行は舎生十六名副舎長及び数日前まで我舎生たりし守谷君との合計十八名である。軽川までは汽車の厄介になった。それより、守谷君、安井君、下村君の先導にて北方に進む、約半里にして第一回の襲撃を試みた。二頭の敵の顔の前に見て空しく逃した。以後、全軍の意気沮喪し四五回の中は更に獲物はなかった。益々西北に進む事一里余にして遂に或る敵の根拠地に到達した、小笹の中を追ふる事二回にして四匹を逃し終に一匹を獲った。一同の元氣は再び快復した。一同は茲に嬉しくも持合ひの晝飯を平げた。此時、徳田副舎長は帰へられた、是より先県人会の爲とて佐藤君も帰へられた、追ふ事尚数回にして一匹を打ち得た、敵の剽悍にして実に出没の機敏なる兎角不平性の一致を欠きたがる我等追撃隊を苦しめた事は非常のものだった。

午後三時に垂んとして日暗く風荒く寒かったので拙者は風邪の爲を以て豊島根本と共に先きに帰路についた。然し眼前に列車を見て而して乗り後れたのである。僕は林檎で喉の渴きと痛を癒し、只管本隊の来着を待った。五時半頃奥間君と園田君とは四匹の兎を重たげに差担ぎにして来た。僕等一時に拍手した。程なく全部停車場に着いた。一同は随分空腹だったらしい。安井君は途中臥れたつたと誰か言った。五時五十一分おしあひへし合ひ込みに込んだ下り列車にとび込んだ。札幌に着いてプラットホームを出るとすぐに得意げに今まで網で包み隠し置いたる件の獲物を曝け出して持った。そしてデカンショ歌で練りかへった。舎前に来た時ハ一同は転た青年寄宿舍万歳を三唱せざるを得なかったのである。今日の兎狩は大成功を以て芽出度此処に終った。

然し、我等は更に不名誉を持った。網を一反中途（兎狩最中）で何処にか紛失したのである。軍人が軍旗を失った程にも行くまいが、確かに銃剣を失ったのと匹敵するのである。勿論責任は全部にあるにせよ、委員たる北村君の心痛又思ひやられて氣の毒である。尚今日は足立安井両君の学友アビコ君が八時頃より応援された事を深謝する。
御馳走は明晩まで待つ事にした。

十月七日 今日久しぶりで雨が降った。風も激しかった。御馳走兎と口々には云はないが、各自実に夕方を待ち焦れたらしい。四時が打ったら誰か知らんもう時や来れりとオルガンをぶう※※ひき出した。ぼつ※※図書室まで形成如何と伺ひに来る者もあった。其中に五時も打ったが容易に拍子木の音はしない。漸く六時で一同（守谷、アビコ両君招待）食堂に参集、淡白の而も柔い甘い兎肉を充分に貪り食って大満足で舎生一同は口々に甘かった※※※を叫んだ。

食後委員会があった。事項の第一は昨日紛失の網の問題である。色々協議の末、一先先方に問合せ事情を述べた後品物にて返すにせよ、現金にて返すにせよ何如様にもすると云ふ事に決した。北村君の外交談判確と頼む次第だ。それから此費用の出先きについても協議したが結局運動部で負担することにした。定山溪の旅行もほゞ決定した、文芸部から今度新に購入する図書について一寸相談したが、副舎長殿は鎌田先生の独立自尊とかがよからうと云はれた。其外会計への支払の緩慢なるを矯める事についてとか、食事について時間を制限する事、朝の味噌汁は結局一杯にする事等の議論もあった。聞く所に依れば昨日兎狩に行かなかった誰かは昼勝手に肉を焚かして食ったとか、夕方に肉計り誰か盛ったとか随分下劣な行為を敢てするものが此同じ舎生の中にあるは誠に遺憾千万である。吾人は小中学生の群とは違ってゐる。我等は自らゼントルマンを以て任じてゐるではないか、こんな事は、筆舌に云ひ得ない所である。実に聞くからに恥辱の至りである。我等は一時も早く、如此き無礼漢を白々せねばならん、直ぐせねばならん。

十月八日 工科の奥間君は水道及築港の調査の為岩内方面、小樽方面に約一週間の予定にて今朝出発せられた（食事なし）。

文芸部で今日山鹿素行著「土道」と云ふと「希臘物語」とを新に購入した。後者は前田某の著だ。

頃日、東京は虎烈刺〔コレラ〕仲々騒ぎの様新〔聞〕紙は伝へてゐる、看者も二十名からあるらしい。

十月九日 農学実科一年生本山恭平君今夕入舎せらる（食事なし）

頃日紛失した兎狩の網は遂に品物にて弁償する事となった。是も北村君の至誠ある同情心が自ら給らしめた論談の結果だらう。

さても面倒で気の毒であるが北村君も此頃是についてハ大分心配されてゐる。

予科二年生小堀九平君今夕入舎せらる（食事あり）、今一人で満員である。青年寄宿舍愈々万歳だ。

十月十一日 新紙の伝ふる処に依れば、長崎の虎烈刺は初発以来百余名に達し警戒嚴重なるにも係らず益々漫〔蔓〕延の様ありと、我舎生の中には或ハ九州のもの或は東京の者も居られるが希くは彼等の親戚知己些も関係ある処の者ハ皆共に如斯き悪疫に犯されざらん事を。

十月十二日 昼食後よりテニス大会があった、我が二十名の舎生は、楡の葉の軟々と音立て、散る彼のコートに気清き秋の半日を愉快の而も花々しいこのゲームに送ったのであ

る。

其成績は次の通り紅軍始めより優勢にて遂に紅軍のみ二組の優待を出し紅軍の勝となった。

紅	白
◎角野君	多田君
小堀君	藺田君
林君	奥村君
角野君	下村君
○安藤君	藺田君○
北村君	今田君
◎安藤君	篠原君○
本山君	種田君
副○豊島君	副安井君
工藤君	上杉君
大将中川君	大将安達君
佐藤君	根本君

因に本山君は近く入舎せられた許りで御手並が解らんと云うので委員が見計って紅の四番目に安藤君と組合せて置いた。処が君の技倆は確かに副将以上だったので白軍をして大に胆を寒からしめ遂に白軍の副将たる安井上杉両君の組危くも■し優待を以て凱旋し大に喝采を博した。此戦に上杉君が一つも得意の獐猛ボールを出し得ず余りに振はなかつた事は声をからして応援した白軍の者にとつてもあつけに見えた様だった。尤君は此頃少しも練習された様では無かつた。最後に紅の副将組工藤豊島両君は白の大将安達根本両君の組を■し茲に紅の大勝となつて三時間に互る撃戦も漸く此処に静り、図書室にて最中と煎餅の御馳走になつた。運動部よりは因に優待者にハ三輪石鹼各一個宛、優勝組の紅の全員に対してハ丸善のブルーブラックを各一個賞として呈した。同夜委員会があつた。協議事項は来月挙行之記念祝賀会に就いてであつた。

序に各委員を左に録して置く（委員選定）

創立第十四回紀念会委員

- 一、庶務 徳田副舎長
- 二、接待 奥間君（主任）、工藤君、徳田副舎長
- 三、会計 林君
- 四、会場 豊嶋君（主任）、今田君、北村君、安井君、本山君、下村君、藺田君、門野君、安藤君
- 五、食事 根本君（主任）、佐藤君、小堀君、林君、工藤君

六、余興 上杉君（主任）、小堀君、藺田君、篠原君、奥村君、種田君、下村君、安藤君、門野君、東山君、安達君、多田君、中川君、豊島君、林君、今田君、北村君
各委員は以上の通りである、新入舎生を全部余興の部に入れたのは何か嶄新な奇抜な考案も持って居られるだらうと思はれるからである。尚、会の順序等に就いては追て著はさう。

十月十三日 工科三年豊島君ハ君の学友数名と共に今朝定山溪に旅行せらる。

水産科一年種田君は今夕退舎せらる。

十月十四日 数日前実習の為旅行に出掛けられし奥間君は今夕帰舎せらる、昨日定山溪に行かれたる豊島君も同日に帰舎せらる（食事なし）。

今朝下の如き掲示が現れた。

近来舎の紀綱大ニ緩み益々本舎独特の美風の衰微せんとしつつあるは殊に遺憾とす。

故に旧来の習慣を印し是を実行せんとす…

…云々と。そして以前は六時以降ハ草履の音もしなかつたとか、門限の如き十時と云ふを皆必ず守つたとか云ふ様な事を細々と書かれた。宜なる哉此掲示、實際此頃喧しい。

古い者が多く騒いだ仲間だったのは実に済まなかつた。僕自身も其一人だった。

徳田副舎長が是を掲示されるに就いて余程躊躇されたらしかつたのも無理からぬことであつたと尚恐縮する次第だ。

十月十五日 期日や各自の学校の都合上、俄に定山溪行きは明日午後からと決定した。

米八合、玉葱八ツ、各自賄婦より出立の際に受けとられたし、等云ふ素敵な掲示は一同を大に喜ばした。所が天気がどうも怪しい、今日は朝より曇りで風があるが、時々ぼか※※する、行く者は是が心配でならん。

十月十六日 雨だ、とう※※雨だった。而し降る様には降らず午後は姑く日も照つた。

是で我々の望も又何日達せられるやら。

十月十七日 今日は昨日の曇天に引き換へ天高く日麗し珍しい小春日であつた。特に今日は神嘗祭の其日である、我舎生の多数は副舎長を始めとして折しも開会中なりし遊園地の園芸共進会を見に行つた。中には藻岩山に行かれた者もあつた。昨日定山溪に行けばよかつたなんで愚痴をこぼす者もあつた。無理もない、今日は実際に好天気だった。遊園地あたりの紅葉は斜にさす秋の光線に映えて燃ゆるが如き深紅を呈してゐた。

十月十八日 水産科下村君は実習の為約十日の予定にて石狩町に赴かる。

十月十九日 予科桜星会員林、工藤、佐藤、北村、安藤、奥村の六君は今日午後一時より一泊の予定にて予科生一同と共に石狩町に旅行された。実科の多田君は実科生一同と共に藻岩山に運動された。同科の安達君林科の根本君旅行を休だ。予科の上杉君及拙者はカメラ会の催しなる数日前より来札されてゐる内村鑑三氏の農業と宗教と云ふ講演を聞きに行つた。

十月廿日 昨日行かれた佐藤君と工藤君は一時頃、他の四君は何も夕方帰舎された。皆仲々の元気で佐藤君の如きは帰舎早々テニスをされた。

三四日来好天気今日あたり殊に長閑でテニスは実に心地よかった。

十月廿一日 予科生は旅行後故全部休みだった。

来月催す事になってゐる祝賀会の主任委員会議があった。大方余興や御馳走に就いての事だったらう。

十月廿二日 我等校の文武会は月寒へ遠足を催した。

我舎生の奥間、藪田両君及拙者を除いて他は皆例の豚汁の御馳走になるべく弁当の外に御苦労様にも茶碗を一個宛持って出掛けられた。今朝握飯を拵へたので賄婦は大変多忙だったらしい。

藪田君は曾て兎狩に行かれた頃から腎臓を煩はれ毎日病院に通って居られる。該病は運動禁物であるからって四五日学校まで缺席され、テニスや旅行は勿論為し難く部屋にのみ寝つ起きつされてるのも退屈らしく誠に気の毒の次第だ。

一同は夕方紅葉等手折って帰られた。僕ハ友ノ勧めに依って石狩へ旅行した。

初雪！初雪！今年は素敵に早い。今日はまだ二十二日なのに、朝からちら※※と舞った。晴れては曇る度毎に西比利亚からでも吹いてくるのだらう、實際肌を撃く寒風にまぎれては舞った。夕方は一面に真白くなった。

十月二十三日 降った、とう※※三寸許積った。蓋し初雪から積るのも珍しからう。樹々にはまだ葉がある、青い葉がある。松柏ならぬ榎や樺の葉に降り懸った雪の風情も亦格別だ、昨日まで尚元気良かった桐は、雪解けと共に一時に葉を落して同情すべき淋しい枯木となってしまった。

雪が降って俄に火が恋しくなった。今日より炭を使用するものは、

徳田副舎長 及び

二号室 五号室

三号室 十号室 ナリ

十月二十四日 山は真白だ、素敵に寒い

予科の教授三田村先生の御令息逝去され、予科の先生は数名欠席された。

丁度正午頃、狸小路に火事があった。全焼家屋約二十軒

炭の使用者

八号室、九号室

十月二十五日 予科外の各科生発火演習があった。我舎からは安井、門野、本山、多田の四君が行かれた。三年の諸君には勿論演習は無く、今日は 剩に授業も無かった由それで、明日は休みと来ては甘い御相伴になったものだ、記念祝賀会は愈々十一月二日に決定した。

十月二十六日 拙者が割付になった記念祝賀会の招待状をやっと三本書いた。金釘流の例の字で。

豊島君は私用にて旭川に午後旅行された。

久しく石狩町に実習されていた下村君は当夜帰舎された（食事なし）

十月二十七日 運動部発起にて舎生有志の者は藻岩山に登山した。蓋し、定山溪旅行が今年はあるで中止となったからである。登山した有志は、徳田副舎長を始めとし、根本、今田、小堀、安藤、工藤、安井、北村、門野、本山、奥間、多田、安達の十二君及び拙者の十四名であった。或者は靴、或者は下駄又は草鞋等にて正午出発、丁度三時頃頂上に着いた。折しも今日は珍しくも長閑な詠向きの好天気であった。頂上から見ると札幌の市街は実によく見える。中部に巍然として聳えてゐる赤き宏壮なる建物は一見道庁なる事を知る。其北西に可なり広く正方形に茶褐の樹木が密生してゐるのは植物園、尚其北に同じく褐色をした大木の間で隠没して見えるのは我等の学舎、辺南に美しき紅葉の色数の中に鏡の如く白く平に光って見えるのは例の中島公園なる事は又札幌に卑も住ひした者ニハ分明である。

豊平川は云ふは更なり、遙に北の石狩川までが工合よく見える。闊達なる石狩の平原が此処に部落、其処に森、彼処に川と種々様々なる象を表し、一望数里眼下に展開してゐるのを気清き秋の山巔から眺めるのは実に心地良きものである。

茲に於て俄に股眼鏡流行し、副舎長まで是を試みられ大に一同興がった。一行の者交々股眼鏡を試みては、等一大パノラマであると叫んだ。そして林檎と菓子の馳走に腹一杯なりて夫々追分やらデカンショやらを怒鳴りながら一目山に下山した。そして舎に着いたのは四時半頃であった。此日、晴天なりしとは云へ頂上にて我々が林檎や菓子を喰った時、皆震へてゐた程寒い風が静ではあつたが吹いてゐた。尚頂上から現に熾火しつゝある樽前山を望んだ時は、皆快哉を叫んだ、徳田副舎長は此挙を大いに賛せられ、金壱円を運動部に寄附された。お陰で一行は満腹の馳走になる事が出来た。

案ずるに青年の元気を鼓舞するは登山を以て最たるものとする事が出来る。我々は彼の町近い風たる藻岩山に上った。でも精神的体育的大に得る処があつた様に思はれる、出来得べくば、斯様な催しを多からしめたい、青年は須く登山すべしだ。

尚書き残したが工藤君であつたか、下の様な歌を作った。「里よりは曇りと見えし藻岩山登りて見れば里ぞ曇れる」、そして誰か影で何かの歌にあるのを焼き直したのだらうとか云つてゐた。皮肉った先生独言つちて曰く「俺ア曾かあれと同じ様な歌を確に読だ」豊島君は夜十時頃帰舎された。

十月二十八日 久しく此舎にあつて種々と尽された奥間君は遂に今夕退舎された。愈々卒業されるのでうんと勉強されるのだらう。

移転先 北五条西七丁目 北住様方

十月二十九日 数日前買入れた数百本の大根は婆やの尽力でやつと皆周りの板壁に吊された、二三日一人の手伝も見えた。

函館の小松原君から記念会には多忙の爲め参上致し兼ねると云つて来られた。

十月三十日 予科生九君は発火演習に篠路方面に行けり、規律などの成つてゐない事、実にお恥しい様で従つて演習其物も見られたものでは無かつたと思つたが内海判審官は終りに講評した時、兎に角良好の方だと云はれたから可らしい、高等学校のそれは皆なこ

んなものかしらん。

夜本月分決算をなす、割合先月は御馳走あつて安かつた。炭を使用しない者が九円四十二銭五厘也の勘定だった。

十月三十一日 前副舎長丹治君より来信あり、尚金壹円五十銭を記念会費の中に寄附さる。函館の小松原君より記念祭は出席されないと云意味の返事来る。

夜、会場係及び余興委員の相談会あり。

十一月一日 昨夜は又寒い例の朔風が吹き荒み霰も真白になる程降った。今朝は庭も、道も固く凍つてゐた。

今日より炭の使用者は

一号室、及び七号室

宮部先生の外に森様来臨さるゝ事に決定。

十一月二日 創立第十四回記念祝賀会当日

午前は登校したので午後は仲々忙しかった、其大略を左に録し以て他日の思ひ出にせん

装 飾

一、額（全地に歓迎と書す、縁は大根）

是は今田君及北村君の意匠に成り、会場の入口に懸けたり、簡にして趣ありき。

一、額（左右に学燈を立て、是にローマ字にて十四を白くぬく、中に清流を流し、是に記念会の文字を秋の小川の紅葉に似せて浮ばせたり、縁は黄菊にて作る）、是は会場の真正面の柱（平常は時計を懸くる処の柱）に三本の小国旗の下に懸けたり。

是は藺田君の意匠になり頗る美事なる物なりき。

一、額 クラーク先生の肖像（林君所有）

一、額 スイッル辺の山村（豊島君某より借用）

外に小額二、三

一、花輪（赤黄の菊花にて本山君の作りしもの）時計に冠せり、麗。

一、世界各国々旗の場内に懸吊

一、紅白の幕、場の内側を圍繞す。

馳 走

一、茶碗蒸し、

一、口取り（キントン、羊羹、カマボコ、鮭、葡萄）

一、吸物（鶏肉、椎茸）

一、酢物（大根、鮭の卵及玉葱）

森様曰く「御馳走も年々進歩しますね」

宮部先生は席に着かれたのみで御病氣故一箸も取られず曰く「匂ばかりも嗅ぎましよう」又、茶碗蒸しの蓋を取られて「何だか甘さうだー、これは見てゐる丈で胃が丈夫になる」。

順 序

一、開会の辞（徳田副舎長）

二、諸部報告

会計部（林 君）

文芸部（拙者）

運動部（北村君）

（林君は参考までにと云って現舎生は一人一日六錢以上の肉類（獸魚）を摂取してゐる事を話された。僕は面喰ってノートばかり見てやっとなを果した。最後にそして富貴堂や維新堂から寄附をさせたいと出鱈目を云って下った。北村君は君の希望として最後に冬の運動としてスキーを各自やられる様にと述べられた）

四、祝辞（工藤君）

物には始終あり、年々年頭年末あるが如く我舎のそれにも亦始終あり、我舎は茲に創立第十四回の寿を迎へたる事を喜び、尚永遠の祝福を祈ると云はれた。簡で明で、実に甘かった。

三、諸況報告（題は何とあつたか忘れた）

副舎長、舎の入費等の事について話された。

六、祝辞（徳田副舎長）

下宿屋に何の秩序も無く独りのらくら生活する青年の不幸を説き、我舎生の此春の如き家庭に等しい舎にあつて勉強するの幸を述べられた。

七、祝辞（舎長宮部先生）

此舎の起りより禁酒禁煙の唯一の主義なる事等を丁寧の説かれた、そして現今の舎は森氏が非常に奔走され寄附を集めて造られしものにて全く森氏の賜と云ふべきであると仰せられた。

五、来賓祝辞（森廣氏）

芸術に捕はれると品性は全く下劣になる事を氏の知人ギヘミヤの詩人について話され、我々青年が稍もすれば文芸々術等と云ふ物を盲目的に追慕するの愚を説かれ又、粗食も甘じて受ける様に習慣をつける事、夜床に入ったら何事も考へずして寝につく様にせよと仰せられた。そして是は氏が曾って新渡戸先生より教つた事で今尚自分は実行してゐるが非常に有益であると述べられた。其他、夜の床中で書見するの害をいはれたのである。

八、閉会の辞

森氏は五が終つた時、宮部先生は会が終つた後、何れも帰宅された。そして後は舎生ばかりでいかにも物足りなかつたが、余興は盛なるものが数々あつた。

余 興

一、福引

二、宝捜し

三、手品二、三（小堀、奥村、中川君）

四、茶筒躍り（藺田、本山両君）

五、芝居 二（下村、多田君、藺田、今田、小堀君、拙者）

お客が皆舎の者ばかりで一向に気乗りがしなかった。

寄附 舎長宮部先生よ金貳円。

森氏よりは、特に図書購入費として同じく金貳円寄附されたり。

備考 丹治前副舎長より金壹円五十銭、（先月卅一日に記せり）委員氏名は先月十二日参照。

嗚呼我が愛す舎、永久に健在なれ。

十一月三日 昨夜の散会は実に今朝午前三時半だったので今朝は寝坊した者が沢山あった。

畏くも今日は明治天皇誕辰の御日であった。

今日より炭の使用者

四号室

十一月四日 新聞雑誌の競売を行ふ。

実業の日本（十） 四銭 副舎長

日本及日本人（〃） 八銭 同

太陽（十） 貳拾七銭五厘 工藤君

タイムス（十一） 拾二銭 今田君

朝日（〃） 拾七銭五厘 安藤君

萬朝報（〃） 拾四銭五厘 豊島君

森氏の寄附金にて進化論講話を購入す（但し代価二円四十銭）

丹治氏に礼状を出す。

十一月五日 宮部先生より「エリオット」博士演説筆記を寄附せらる。

巴再幹の空を戦雲一度覆うてより、日尚浅きと雖今や土耳其は連戦連敗首府コンスタンチノブルをブルガリア軍に依りて包囲されんとしつゝありと、彼は始め伊と戦を開き、次いでバルカンの諸邦ギリシヤ、セルビア、ブルカリア常備兵僅に三万のモンテネグロ等と又重ねて干戈を交へ而も連敗、昔強国の土耳其今果して何処にありや。

十一月六日 此頃二、三日暖になりぬ。

十一月七日明治天皇陛下畏れ多くも去る七月三十日神去なしましてより今日は早くも百日祭を行ふ日となりぬ。皇太后陛下は桃山御陵に参拝あらせられたる由もれ承る。

第三回目の降雪なり。

十一月八日 引続き昨日より雪、いよ※※雪の国となりにけりだ。櫓の鈴がいやに次痛に聞こえる。米国大統領にはウィルソン氏大多数にて当選したる由、而して氏は我佐藤学長と同時にホスポスキンス〔ホプキンス〕大学を卒業した者にて現に学長とは大の親友なりと。

十一月九日 今日も亦雪、ろく※※降りもしないがやはり晴れない。

十一月十日 委員会あり、第一の目的は賄婦の給金を増してやっては如何と云ふを評議す

るにてありき、現在、彼女のそれは僅に月二円にてキリスト教青年会のそれは、六、七円なるに比すれば大に安い、尤も青年会の賄婦は非常なる働き手なる由なれ共、それで直に委員一同は皆是を賛成した。そして壹円を増して以後は月三円を給する事にし、月末の賞与等一切待ち居らせ無様にした。(実は未だかくの如き契約はあったが、一回も与へざりし由)そして彼女には「忠実に働いてくれたに依って舎生一同は大に喜んでゐる、それで是までのまめの働きを賞めて以後一円を増してやる、其代り、これよりは賞与と云ふ様なものは絶体にないだらうから其積りてゐる様に」と話すことにした。

外にも話は種々あったが、障子紙は舎費で支弁する事にしたと云ふ事位で、他は履物の注意、炭火等の平生の行為についてのノーチスであった。

十一月十一日　とう※※今日も晴れ無かった、しかし雪は大部溶けた。

十一月十二日　天気、異常なし。

十一月十三日　変りなし。

十一月十四日　かはりなし。

十一月十五日　昨夜より吹雪して積雪約五寸。

十一月十六日　異変なし

十一月十七日　同

十一月十八日　同

十一月十九日　昨日より札幌座に於て南極探検隊活動写真あり、徳田氏を始め数名の舎生観覧せり。

十一月二十日　近頃テニスが出来ないので、毎日ピンポンが大流行だ。今日は珍しい天気だった。

兼ねて運動部で注文して置いた兎網今日漸く整ふ、代は二円七十銭なりし由、同委員さんも是でホッと一安心されたらう。

十一月二十一日　近頃稀の好天気、学校のスチームも朝の中通じた丈だった。

十一月二十二日　今日も亦無風で晴れ、新に秋に入る様の気がする。

十一月二十三日　今日は新嘗祭の当日である、黒布のついた国旗は行く人をして皆九月の悲しみを新にせしめた。

十一月二十四日　日曜と祭日で休が二日続いたので試験は近づいてゐるが皆仲々遊んでゐる。

十一月二十五日　雪若干あり。

十一月二十六日　異変なし。

十一月二十七日　同

十一月二十八日　農学実科一年生岩田伊七郎君昨夕入舎せらる（食事今朝より）

十一月二十九日　近頃稀の大雪、積雪正に一尺五寸血気の我等舎生青年も愈々通学のみ只其丈に困難を感じずる様になりけりだ。

夜、決算あり、今月は珍らしく高くついた、通常が十一円八銭五厘、古今未曾有だ由。

十一月三十日 稀の晴天。

十二月一日 曇天。

十二月二日 夕食後、競売を行ふ、結果は左の通り。

日本人 (二冊)	九銭	多田君
太陽	十二銭也	藺田君
北海タイムス (十二月分)	十銭五厘	門野君
東京朝日 (〃)	十五銭也	北村君
萬朝報 (〃)	十四銭也	篠原

十二月三日 夕食頃、内閣総辞職の号外来る、蓋し西園寺内閣は増師反対にて倒れたる也。

十二月四日 事変なし。

十二月五日 同

十二月六日 毎日降るや降らずやな雪天。

十二月七日 石沢達夫氏の病気を札幌病院に訪ふ、始め拙者が氏の病室に伺ひたる時氏は随分不振気な御面持せられたが、青年寄宿舎を印した名札を差上げた時、再び莞爾と笑まれて種々舎の事ども尋ねられた。益々御快良いと御話誠に望しい事であり、一日も早く退院されん事を御祈りす。

今日愈々実科の時間割は発表された。

十二月八日 北村君が早朝雪を犯して学校に行つて工科と予科の時間割を写して来て呉れて一同大に有難かつた。

十二月九日 舎生は愈々勉強で夢中である。

十二の部屋が皆明くて然も咳一つ音のしない時程心持の良いものはない。

十二月十日 いつもながら降ったり、曇ったり、吹いたり所謂寒中天候には誠に閉口する。

十二月十一日 かはりなし。

十二月十二日 水産科二年今田君下村君等の第一学期試験は今日から始まつた。

十二月十三日 数日前に第二次西園寺内閣は二個師団増設反対と云ふ主義の為に倒れ、後継者今尚定まらず元老会議は日々に開かれ輿論紛々として新紙の二面は此事件で全く占領されてしまつた。

十二月十四日 今日から予科を始め各科の学期試験である。一同の幸運を祈る。

十二月十五日 変りなし。

十二月十六日 夜雪降る。

副舎長徳田氏私用の為当夜十時休講にて上京さる。

十二月十七日 愈々桂第三次内閣成か号外来る、舎生中には食後に思ひ※※の夫々批評をする者もあつた。

十二月十八日 変り無し。

十二月十九日 一人の人夫に屋根雪を落さず、三日位かゝる予定。

十二月二十日 試験も後一日と残り惜しくなった。雪落しで屋根をとん※※されるので中には癩に障った者もあってぶつ※※こぼしてゐた。得意気に寝た者もあった。

十二月二十一日 全科学期試験は愈々今日で千秋落しに、籠から放された鳥の様な気がする、予科三年工藤君は夜帰省された。

十二月二十二日 午の列車で豊島君、藺田君、下村君の三名帰省された。

夜月次会に併せて忘年会を挙げる。

御馳走は嫌いな人の無い蕎麦三杯残っておまけが一杯ついた。

六時半開会

開会の辞 根本君

開会の辞に併せて休暇中暴飲暴食をされない様にと有難い老人ぶった注意をされた。

然し僕は大に運動して而して大に食って貰いたいと思った。

文章朗読 佐藤君

潮待草から大望とか云ふ章を読まれた、俄にやられたと見え二、三字これや解らんと云はれたのは滑稽ではあったが、却って聞く方がいやになる。

演説 今田君

卒業後の吾々の覚悟と云ふ様な事に就いて述べられ、尚休中は雑談に時を費すよりも書見をせよと云はれた、誠に御尤もの説。

演説 林君

今度樺太旅行中の所感と云ふ中で（所感の多くは九月新入生歓迎会の時述べられ）一度誓った禁酒を飲待された某々の妙意の為敗らんとして終る是を退け初志を貫徹したのは実に自分の誇りとする所である。誘惑に打勝ちたる時の愉快は筆舌の及ぶ所でないと云はれた。

演説 多田君

大正元年の回想と云ふ題で述べられた。

宮部先生の御話

カーネギーを例としてピースメーカーの最も尊ぶべきものなる事をお話になった。蓋し、舎生中に万一暗闘等のある時は直に融和させる労を取るべき事を言はれたのである。而も学校時代に意志流通せず喧嘩などしたりし者は卒業後も依然相互に敵視して何の得る処非る〔而〕己か共に中傷し合ひ短所の深し合ひ等をして甚だ不利益となる物であると云はれた、尚前に佐藤君の朗読文大望に就き青年時代に大志を抱いた者がよく其大志を美事に達し得しものがあると先生の同窓について話された。吾々青年たる者は大に此訓言を再三熟考すべきであると思った。

是にて式終ると菓子の御馳走となる。尚先生には図書目録を作る必要を此間に述べられ、是が出来た上には一度先生まで見せよと仰せられた。是に就いては僕も十月に徳田氏に御話して是非作らうと思つてゐたが学校がつい忙しくなるにつけ其儘に放換して置いた事を大に残念に感ずる次第だ。

先生がお帰りになって吾々舎生はいよ※※本相を吹き出した。委員考案の種々仮定した■を引いた。そしてお互に出鱈目の大法螺を吹いた。仲にも滑稽なりしは、僕が死んだら？云ふので曰く死んだら已を得ないから鬼の〇〇〇を掘る、一同はどっと笑ひ崩れた。かくてありとあらゆる芸をつくし大笑の中大愉快に散会したのは実に明日の午前二時であった。

十二月二十三日 昨夜の騒ぎで大部朝寝坊した者があつたらしい。学生は全く休暇中が花だ、昨日から寒稽古を始められた諸君は撃剣部安藤君と多田君、柔道部小堀君、安井君、奥村君及拙者である。今田君は今日からやられる様だ。青年寄宿舎の健児幸に健ならん事を。

二十二日追加 委員改選

尚、此夜委員改選を行ふ、結果左の如し。

文芸部	小堀君
会計部	藺田君
食事部	安藤君
衛生部	多田君
運動部	奥村君

此中、藺田君は今帰省されてゐるに付前委員林君が一時尚引続き会計部の事務をせらるゝ事とした。

十二月二十四日 水産科今田君は実習の為今朝忍路に行かれた。

十二月二十五日 夕張炭坑又々爆発し死者二百余名を出だせし由、蓋し、夕張炭坑は無類の魔窟。

十二月二十六日 此頃朝飯に非常に遅る者があるので婆やが憤慨してゐた。実際此頃の舎生一部の規律といったらなつてゐない。目録を作る為に図書の整理を小堀君と北村君と三人で始めたが容易に片付きそうもない。

十二月二十七日 昨今素敵に天氣が良い、それと同時にめっきり寒く成つた。洗面所の窓ガラスには終日美しい氷の花が咲いてゐる。

今日は舎で餅搗きをした。二斗五升を十有六人の大丈夫が僅か三時間半で搗きこなしてしまつたのは実に面白かつた。そして早速昼飯に着粉の御馳走になつた。然し今日はレコード破りの武者振りをした者も無かつたらしい。

十二月二十八日 今夜決算をする積り所、豆腐屋の奴通を持って来なかつたのでおぢやん。休みとなつて以来まだかるたやとらんぷで騒いだのはほんの一、二度に過ぎんのは一体どうしたのだらう、尤も碁等で随分夜深〔更〕しをする者もあるが。

十二月二十九日 兼ねて根本君と佐藤君に一任して置いた電燈取就け問題は愈々解決した。各部屋に一個宛（十六）点ける事となつた由、両君は取就け催促に今日も行かれた。長官更迭せり、前長官石原健三氏は再び愛知県知事に任ぜられ、後任として山内一次氏赴任さるべしと。

願れば丁度十月の一日から今日まで一寸三月の間文芸部委員として此舎の日誌を下らぬ事を書いて来た。此間には勿論、沢山の落度があったり、殊更に日誌を汚す価値の無い事ども書きつらねてあるかも知れんが是は一切茲に御詫びして置く、是より新文芸部委員君に此仕事を御譲りする。

十二月三十日 数日前実習の為忍路に行かれてみた今田君夜帰舎された（食事なし）

〔明治四十五年 日誌 終り〕